

ひろさきふじ

育成者：大鱒勝四郎（青森県弘前市 来歴：ふじの早熟系枝変わり
鬼沢） 育成地：青森県弘前市

特性

■栽培特性

樹姿は開帳性で、樹勢は「ふじ」よりやや強く、直立枝や水平枝が強く出る性質がある。新梢は中間あたりでくの字形に曲がる特徴がある。曲がる程度は樹勢の強い2～3年枝で50%くらいみられ、その後数年を経るごとに少なくなり、10年以降ではほとんど見られなくなる。開花は「ふじ」より1日ほど早い。その他の性質はふじと変わらない。

育成地における成熟期は、「ふじ」より約1カ月早い9月下旬から10月上旬で「千秋」より少し早い。収穫が遅れると硬度が低下し、油あがりが見られる。

■果実特性

1果重は310g前後、果形は円形で、玉揃いは中程度であり、果梗の長さ、太さは中位で肉梗があり「ふじ」に似る。果皮を被う色は赤～濃赤で、最初、有袋の「ふじ」のような鮮やかな赤い色が縞状に着色し、色が濃くなると縞が目立たなく不明瞭になる。

果肉は黄白色、蜜入りの程度は中で、果汁が多い。糖度は13～14%（屈折計示度）、酸度は0.35～0.40%（滴定酸度）で、食味は甘酸適和で「ふじ」よりやや酸味が少ない。年によってつる割れ果の発生が見られる。貯蔵性は普通冷蔵で約1カ月程度である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害に対する抵抗性は「ふじ」と同程度と考えられる。樹の特性は「ふじ」に似るので栽培管理法は基本的に「ふじ」に準ずる。日当たりの悪い枝に着いた果実は、着色が薄く、食味が劣るので、日光が十分当たるように成り枝を配置する。

■地域適応性

本品種の栽培は、まだ県内全般に広まっていないが、県内のいずれの栽培地においても適するものと思われる。弘前市農協組合員を中心とした「ひろさきふじ普及会」で、栽培管理技術の習得、食味を重視した販売の一元化など、生産と販売の両面から育成、普及に努めている。しかし、県外の暖地では着色しづらいと思われる。

現在、「つがる」の後、「ふじ」までつなぐ品種として、市場で高く評価され、今後県内においては生産が急増するものと思われる。しかし、本来の「ふじ」との混乱を避けるため、本格的に「ふじ」が出回る前に販売を終了することが望ましい。

（今 智之）